

地域の高齢者と若者を繋ぎ、豊かな里山文化を 保全・継承するモデル作りに関する研究

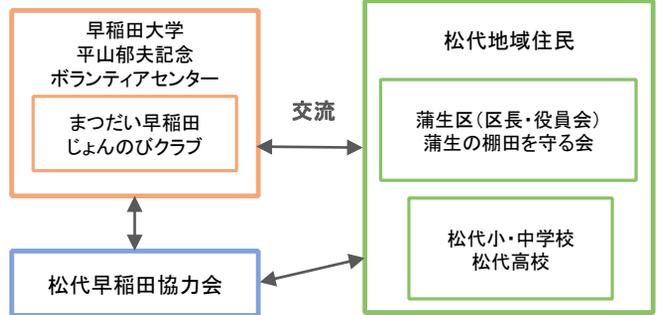
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 助教 加藤基樹
WAVOCまつだい早稲田じょんのびクラブ



活動目的

- 地域住民との交流**
 地域高齢者と様々な手段でコミュニケーションを取ることで、(年中行事への参加やお宅訪問の実施)、学生との間に強固な信頼関係を構築した。
 また、蒲生区での交流のみならず周辺地区とのつながりを作ることで、松代地域において包括的な交流を仲介する団体となる事を目指した。
- 地域文化の保全・継承**
 雪ほり体験プログラムの実施や棚田に不法投棄されたゴミの回収を通して、地域独自の文化を守り次世代につなげていく活動を展開した。

実施体制



活動内容

松代雪ほりプログラム

- 雪ほり**
 家の屋根に登っての作業が多い雪ほりは高齢者にとっては危険である。東京から来た若者が少しでもお手伝いをしたいと始まり、今年で18回を迎えた。現在じょんのびクラブが展開する活動の礎となっている。
- 懇親会**
 蒲生区の住民や、隣の儀明区の住民、松代早稲田協定会の方など、松代地域のあらゆる立場の方々が集う機会となった。
- 民泊**
 学生が地域住民の家に宿泊することで、より親密な交流を図るとともに、地域住民の暮らしを知ることができた。



山菜採り企画

- 山菜を収穫し、調理と食事会を行った。**
- 地元の有志と学生が協力して企画運営を行うという形態をとったため、より地域住民の要望に沿った活動とすることが出来た。**



越後まつだい冬の陣

- 松代地区最大のイベントである「越後松代冬の陣」に参加した。**
- 蒲生地区に隣接する名平地区の方の紹介でイベントに出店されるラーメン屋台の手伝いをし、店主の方とはもちろん、来場者とも世間話などで交流を深めることができた。**

地域行事への参加

- 地元の役員会主催で開催される行事に実際に参加した。蒲生地区での自治を担う役員の方々との信頼関係をより強固にするとともに、地域に根付く伝統を体感し次世代に継承することを目指した。**
- 団子まき: 厄年の方の厄を分け合う行事である。**
- 道普請: 道の清掃を行った。高齢の為に作業へ参加出来ない方に代わって学生が活動することで住民の方の負担を減らすことが出来た。**



棚田保存会の活動

- 全国有数の美しさを誇る棚田を次世代に残すべく保全活動を行っている。**
- 総会参加し、今後の活動計画が話し合った。空き家を整備して観光客や集落住民や学生の交流の為に「棚田交流館」とする工事計画などが決まった。**
- 松代は日本有数の豪雪地帯であるため、冬期では目立った活動はなかったが、夏以降の新たな展開が期待される事業である。**

見えてきた課題

- 蒲生集落の高齢化が著しく、集落自体の存続は厳しい。**
- 多くの住民が集落の活性化を望んでいない。**
- 活動のほとんどを同集落で行っているため、弊団体の存続も危うい。**
- しかし、旧松代町内では大地の芸術祭をはじめとするイベントに積極的に参加し、地域の活性化を目指す集落も存在する。**

今後の展開

- 蒲生地区において今まで以上に住民との交流を行い、蒲生の文化や風土について知り、そこで知り得たことを集落の記録としてまとめ、蓄積していく。**
- また、現地の方々の需要に応えるために、普段の活動の対象地域を松代や十日町市まで広げることを模索していく。**
- 集落の運営を担う役員会から退いた住民の意見を組み上げるために、役員会だけでなく多様な地元住民と交流する。そのことによって地元高齢者とのより持続可能な交流活動のモデルの構築に接近することを目指す。**



2つの集落の方と学生が一同に会して楽しんだ懇親会